

(2022 年 10 月 31 日発行)

日本口腔顔面痛学会 理事長 松香芳三

広報委員会委員長 伊藤幹子

今回は、7 月 1 日～25 日の期間で WEB 開催された口腔顔面痛ベーシックセミナー2022 について慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室の浅野崇浩先生に報告していただきます。

口腔顔面痛ベーシックセミナー参加報告

慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室 浅野崇浩

今年度の口腔顔面痛ベーシックセミナーは新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン上にて実施された。講義はそれぞれ約 10-15 分程度で講義後に小テストが実施され、各分野の知識の確認が行われた。また、講義内での疑問や詳しく触れられない内容については質問コーナーが設置され、講師の方から直接回答をいただくことができた。

1. 「口腔顔面痛学の概念と痛みの医療面接」

講師 野間昇先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）



野間先生からは口腔顔面痛についての概論をご解説いただいた。痛みの種類は、侵害受容性疼痛・神経障害性疼痛・痛覚変調性疼痛の3種類に大別される。非歯原性疼痛の中には筋・筋膜性疼痛をはじめ、心臓性歯痛のような原因部位とは異なる部位（歯・歯肉）に関連痛を生じるものも含まれる。診断においてはトリガーポイントの触診と関連痛の誘発の確認が重要であることを解説された。「正確に鑑別診断をするためには病気を知る必要がある。診断を誤れば治療も失敗する」との言葉が印象的であった。医療面接においては、痛みの構造化問診で痛みの特徴を整理して鑑別診断を列挙することと、検査方法や治療方法についての知識を蓄えておくことが大切であると認識された。

2. 「必須の痛みのメカニズムと薬理作用」

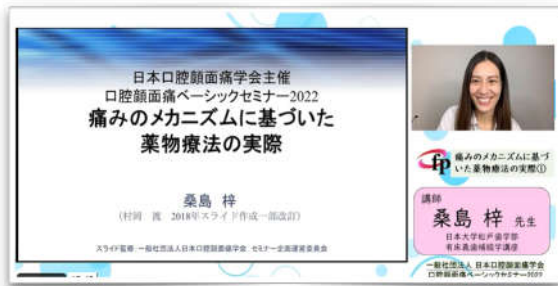
講師 篠田雅路先生（日本大学歯学部生理学講座）



篠田先生からは、痛みに関係する A δ 線維と C 線維の特徴と、神経の受容器と受容体の仕組みについて基礎の側面から説明がなされた。学生時代の薬理で丸暗記して学んだ NSAIDs をはじめとする薬剤の作用機序について、具体的な薬物名と絡めて学ぶことができた。臨床現場で使用する薬剤の細かい作用機序やチャンネルについて確認ができ、とても有意義であった。日常的に使用するアセトアミノフェンの作用機序については詳細が不明であることには驚かされた。

3. 「痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際」

講師 桑島梓先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）



桑島先生からは、具体的な症例を参考に筋・筋膜性疼痛、顎関節炎、典型的三叉神経痛、神経障害性疼痛に対する実際の薬物療法について説明がなされた。疼痛構造化問診や顎関節症診査項目、口腔顔面痛領域で 사용되는基本的な薬剤の実際の用法用量や注意点、薬物療法後の再評価結果についても示された。診断に際して情報を整理することの重要性、患者への病態説明の重要性が再認識できた。また、講演の中で実際に桑島先生が実施されている顎関節症の触診や診査方法についてジェスチャーを交えて解説がなされた。早く対面での診断実習が開催されることが楽しみである。

4. 「咀嚼筋由来の歯痛とは」

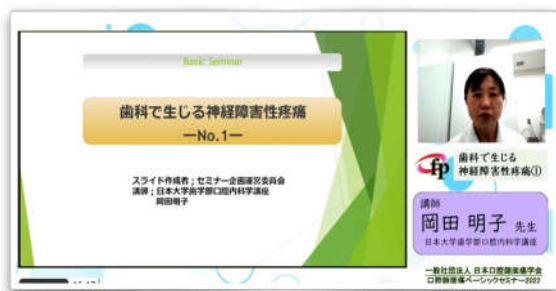
講師 原節宏先生（日本歯科大学附属病院総合診療科・顎関節症診療センター/口腔顔面痛センター）



原先生からは、非歯原性歯痛でもっとも高確率で遭遇する筋・筋膜性疼痛について解説がなされた。筋・筋膜性疼痛の診断ポイントでは、必須基準として硬結と圧痛があること、触診による関連痛の誘発があることがトリガーポイントマニュアルに示されているとの説明がなされた。筋硬結に刺激を与えることで圧痛と関連痛が消失することや、セルフケアとして実際の治療に応用されている根拠が示された。原因不明の歯痛の約8割に筋・筋膜性疼痛が併発していること、そのうち50-85%が関連痛として歯痛を誘発していた等の文献報告があり、日常で頻回に遭遇する歯痛についても筋・筋膜性疼痛の関連を念頭に慎重な診断が求められると思われた。また、胸鎖乳突筋や僧帽筋からの関連痛の症例もあるため口腔領域以外の患者の身体所見も注視していきたいと感じた。

5. 「歯痛で生じる神経障害性疼痛」

講師 岡田明子先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）

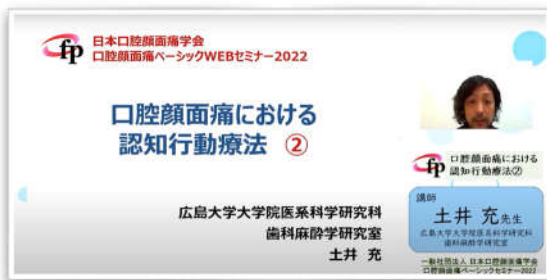
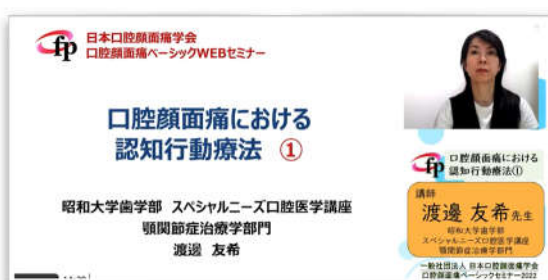


岡田先生からは、神経障害性疼痛についての分類と対応上の注意点についてご説明いただいた。神経障害性疼痛は発作性神経障害性疼痛、持続性神経障害性疼痛に分けられる。具体的な症例を通じて、redflag となる疾患を鑑別するため、12 脳神経診査の手法を再確認する重要性を改めて認識した。定性感覚検査診断に際しての神経の傷害度や急性期と慢性期の区別、神経障害性疼痛の症状に応じた治療、神経の傷害度に応じた対応が必要であることが示された。

6. 「口腔顔面痛における認知行動療法」

講師 渡邊友希先生（昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門）

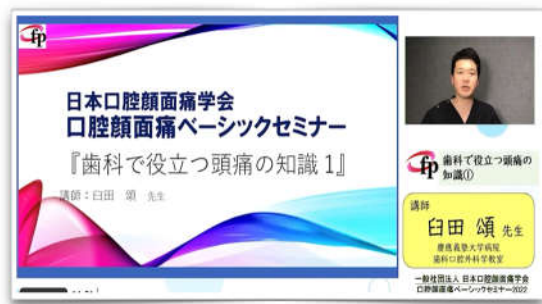
講師 土井充先生（広島大学大学院医系科学研究科歯科麻酔学研究室）



渡邊先生と土井先生からは、心身症と認知行動療法について考え方を中心に説明いただいた。痛みは身体的苦痛と精神的苦悩の相互作用で症状増悪を示す。そのため身体的疼痛の側面にだけフォーカスを当てるのではなく、医療面接を通じての良好なコミュニケーションをとることや、良好な関係性を構築することで精神的側面において患者の感情に共感と受容を示すことが重要であると説明いただいた。また、認知行動療法では問題解決を妨げている認知・行動が何かを患者に認識してもらい、変容を促して自分の行動をコントロールできるように治療者が働きかけることの重要性が示された。具体的には患者と治療者は問題解決チームという認識をもち、環境と個人（身体・認知・感情・行動）がどのように関わり合っているかを整理して慢性痛に対して介入していく。身体と心の緊張をほぐすことが必要で、患者の痛みをモニタリングすることで客観的に認知を再構成し、バランスの取れた考えを取れるように治療者は協力していく。慢性痛患者においては行動・身体・認知・感情の順で変容を起しやすいため、患者に対しては周囲の環境や自分の生活習慣のような行動から変化を促せるよう伝えていきたいと思った。

7. 「歯科で役立つ頭痛の知識」

講師 白田頌先生（慶應義塾大学病院歯科・口腔外科学教室）



白田先生からは、緊張型頭痛と顎関節症に起因する頭痛の鑑別について説明がなされた。頭痛は眼窩外耳孔線上の痛み、顔面痛は眼窩外耳孔線下かつ頸部上かつ耳介前方の痛みとそれぞれ定義される。一次性頭痛で最も有病率が高い緊張型頭痛について ICHD-3 を元に説明がなされた。また、二次性頭痛に分類される顎関節症に起因する頭痛は、緊張型頭痛と一部重複していることが示された。顎関節症の診断としては、DC/TMD の診断決定樹を参考に問診と診察を行っていくことや、歯科医師として適切に顎関節症に起因する頭痛を鑑別できること、さらには適切な医療機関への紹介ができることが必要であると思われた。後半では、一次性頭痛の片頭痛と TACs(三叉神経・自律神経性頭痛)のメカニズムについても詳細に説明された。

8. 「診断に導く臨床診断推論」

講師 村岡渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）



村岡先生からは、臨床診断推論について解説と実際の応用例をご提示いただいた。臨床診断推論とは、主訴、病歴、基本的身体所見などから鑑別診断のヒントとなるキーワードを抽出し、それを軸に疾患を推定して鑑別診断名を想起する方法のことである。菌原性歯痛と非菌原性歯痛の臨床的鑑別においては、痛みを生じている歯に痛みに見合う病態がない場合や、局所誘発刺激により痛みの再現性がない場合に非菌原性歯痛の可能性が高い。非菌原性歯痛は一発診断が通用せず、医療面接と疼痛構造化問診での情報収集が必要となる。鑑別診断の列举と優先順位付け、追加検査や診察での各病態の確認を行い、得られた情報よりそれぞれの鑑別診断の整合性を確認する。必ず1つの診断名に絞り切る必要はなく、複数の診断名をあげて優先順位をつけておくことや、完全に否定できない病名は疑い病名として残しておき、再評価をしながら適切な診断と治療に結びつけていく必要があることが示された。実際の症例を用いて臨床診断推論を行い最終診断にいたるまでの過程を供覧することで、村岡先生の実際の思考を追うことが出来たのが印象的であった。

【浅野崇浩先生のプロフィール】



【略歴】

2017 年 3 月 東北大学歯学部 卒業
2017 年 4 月 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 入局
2019 年 4 月 川崎市立井田病院 歯科口腔外科 出向
2021 年 4 月 武南病院附属クリニック 歯科 出向
2022 年 4 月 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 帰室

【資格】

日本口腔顔面痛学会 認定医
日本歯周病学会 認定医
日本口腔外科学会 認定医

【趣味・特技・自己紹介】

幼少期から剣道と書道をしており、現在は日本剣道連盟剣道四段を取得。感染症蔓延で満足に稽古はできていないが様子をみて五段取得を目指したい。ここ最近は Yogibo とプロジェクターを購入して家活が捗っている。慶應病院、井田病院で口腔顔面痛の面白さを学び、医療面接の重要性と患者との情報共有の難しさを日々実感。河崎一夫先生の医学生へ「医学を選んだ君に問う」の記事を読むたび常に初心を大切に、研鑽を積んでいきたいと感じている。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp